

栃木医療センター 広報誌

No.
61

理 念
信 頼 貢 献 協 働



Contents

- 2026年 年頭所感 1
- マイナ保険証受付コーナーを開設しました ... 5
- 第79回 国立病院総合医学会に参加して ... 2
- 連携医紹介（にしかわだキッズクリニック） ... 6
- 検査説明センターの稼働状況について 3
- マイナ保険証の登録はお済みですか？/交通のご案内 ... 裏表紙
- 放射線治療装置の第三者機関による出力線量測定を受けました ... 4

2026年 年頭所感



院長 石原 雅行

新年あけましておめでとうございます。昨年を振り返りますと、強化した救急体制と新年度より新設したリウマチ膠原病内科が、病院としての大きなステップアップであったと思います。年末には新型コロナとインフルエンザの感染症患者が殺到して、内科・総合診療科医師をはじめとした職員が青息吐息の中で踏ん張り、公的病院としての役割を果たすことができました。

さて、昨年末に行われた栃木県の『県立病院あり方検討有識者会議』において、県立病院は公的病院との統合による総合病院化が望ましいという議論がなされ、統合先の公的病院として『国立病院機構栃木医療センター』が望ましいという意見が出されました。皆さんの中には、栃木医療センターが無くなってしまうのではないだろうかとご心配される方もいるのではと思います。

統合先公的病院の候補として当院が挙げられたのは、当院がいらないということではなく、当院の診療実績が県民のニーズに寄り添うものと評価されたからです。実績のある救急医療・高齢者医療（肺炎・廃用症候群・循環器病・脳卒中・外傷骨折等）に加え、未来を担う小児医療（小児科・小児外科）、宇都宮圏域のリウマチ膠原病拠点などの取り組みが今回評価されたわけで、それらの医療は今後も継続しなければなりません。その上で、10年後や、その先の未来の人口動態を考慮した発展的統合について議論していきたいと思っています。

人口動態を考えると、高齢者医療のニーズはますます増加し、看護師をはじめとする医療者数は激減します。周辺圏域の医療体制の未来は、より広域へ対応する必要性が高まることが予測されます。しかし、医療者が寝る間を惜しんで耐え忍び頑張るというような方法だけでは、これを成り立たせることは長期的には不可能です。シナジー効果とスケールメリットを活かし、効率的な医療体制を構築する必要があります。病院統合が、病院の撤退でなく発展的進化形を目指せるように、栃木医療センターがイニシアチブを取っていくことをお約束します。

また、昨年も申し上げましたが、『病院のやるべきこと』と『病院のできること』と『病院がやりたいこと』を繋いでまとめることが重要です。これらが一致しないと努力は空回りして各々の満足度が低くなり、地域の皆さんも病院職員も幸せになりません。『病院のやるべきこと』については、地域の皆さん一人一人のご意見が重要になります。皆さんと一緒に考え、皆さんと一緒に地域医療の発展を実現していきたいと思っています。本年もよろしくお願いいたします。

第79回 国立病院総合医学会に参加して

毎年開催している国立病院機構総合医学会ですが、第79回は石川県金沢市で2日間にかけて行われました。今回は、当院の職員2名がベストポスター賞を受賞しました。

●7階病棟副看護師長 田野井 寛子

「小児アレルギーエデュケーターによる看護外来の現状報告」という演題で、ポスター発表を行いました。

私は現在、小児看護専門看護師・小児アレルギーエデュケーターとして、小児科医師と連携して、アレルギー指導外来を行っています。アレルギー疾患のある子どもと家族への支援は、自宅療養ができるように周囲の理解を含めた治療環境を整えることが重要です。そのため、看護外来では、子どもと家族が疑問に思っていることや困っていることなどに対して丁寧に対応し、自宅でも実践可能な具体的なセルフケア方法の提案などを行っています。

今回、看護外来での実践内容をまとめて発表し、ベストポスター賞をいただくことができました。これからも、看護外来で出会う子どもと家族の疾患や治療に対する不安の軽減に努めていきたいと思います。発表という貴重な機会を提供していただきましたこと、また看護外来を支援してくださる医師、看護部、その他の方々に厚く御礼申し上げます。

●外来看護師 小林 智美

「^{しゅし}手指衛生^{じゅんしゅ}遵守率向上への取り組み～手指消毒剤使用量の係数・手指衛生直接観察の結果から～」という演題で、ポスター発表を行いました。

当院は、感染症指定医療機関です。院内でアウトブレイクを起こさないためには、手指衛生の徹底が重要です。今回、看護師の手指衛生遵守率向上を目指して、感染管理認定看護師と共に手指衛生に関する複数の取り組みを行った結果、全ての部署で手指衛生遵守率と手指消毒剤使用量の目標達成率が上昇しました。今後も患者さんに安心して来院していただけるよう、さらなる遵守率向上を目指して取り組んでいきます。

初めて参加した国立病院総合医学会で、ベストポスター賞を受賞することができました。ご協力いただいた看護部の皆様と、ご指導いただいた病院スタッフの皆様に厚く御礼申し上げます。



検査説明センターの稼働状況について

外来看護師長 小野瀬 仁美



当院では、検査を受けられる患者さんに安心して臨んでいただけるよう、2025年4月に検査説明センターを開設しました。検査は診断や治療方針を決定する上で欠かせない重要な過程ですが、初めて受ける方にとっては、「どんなことをするのだろうか」「痛みはあるのだろうか」と不安や疑問が多いものです。そこで、当センターでは、検査の流れや注意点を分かりやすく説明し、患者さんの不安を少しでも軽減できるよう努めています。

現在、検査説明センターには看護師やクラークが常駐し、平日午前9時から午後5時まで対応しております。開設後は、主に造影CTや内視鏡検査について、月平均で約450件の説明を行っております。説明は平均15分程度で、内容は検査の手順や検査前後の注意点、内服に関することになります。食事制限や下剤の服用方法など、検査前の準備を正しくお伝えすることで、安全に検査を実施することができています。患者さんからは、「事前に流れを知ることによって安心できた」「検査前後の注意点を理解できた」といった声が寄せられ、センターの役割が着実に広がっていることを実感しています。また、外来診察と説明を切り分けることで、診察室前での待ち時間緩和にも繋がっています。

さらに、より分かりやすい説明内容となるよう、図解入りのパンフレットや動画資料のような視覚的方法を取り入れるなどの準備を進めています。今後も患者さん一人ひとりの状況に応じた柔軟な対応を心がけ、安心して検査を受けていただける環境を整えていきたいと考えています。



放射線治療装置（リニアック）の第三者機関による 出力線量測定を受けました

特殊撮影主任 小林 幸太

当院の放射線治療装置（Elekta社Synergy）は、2025年10月に、公益財団法人医用原子力技術研究振興財団による出力線量測定を受けました。この測定は、放射線治療にかかわる各学会（公益社団法人日本医学物理学会、日本放射線技術学会、日本放射線腫瘍学会）によって2023年に作成されたガイドラインで、3年に1回実施することが推奨されています。

放射線治療では、全国どこの施設で治療を受けても同じ治療効果が得られるように、同じ値を入力したときに、どの装置でも患者さんに処方される線量が同じであることが基本となっています。例えば、100という値を入力したとき、施設によって出力が90だったり110だったりすると、治療効果が変わってしまいます。そのため、放射線治療においては装置の管理がとても重要です。

今回は、当院で放射線治療に用いている全てのX線（4、6、10^{メガボルト} MV）について、当院の治療計画装置（MONACO）で計算した結果を出力した線量を測定しました。結果は、全国基準線量と比べて+1.4%および+1.8%で、許容範囲の±5%に対し、十分に小さい誤差であることが認められました。この結果により、放射線科の医師が計画した通りに放射線治療が行える装置・システムであることが、証明されました。

患者さんには、引き続き安心して放射線治療を受けていただけたと考えています。また、連携施設等の先生方にも、安心してご紹介いただける結果が得られたと考えています。今後も精度管理に力を入れ、安全で高精度に管理された放射線治療を提供できる体制を継続していきます。

治療用照射装置出力線量の 第三者機関による測定実施証明書

施設名 独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター
住 所 栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37

貴施設の治療用照射装置は、公益財団法人医用原子力技術研究振興財団が実施する第三者出力線量評価を受けたことを証します。

報告書番号 S250131

2025年10月10日

公益財団法人 医用原子力技術研究振興財団
線量校正センター長 達藤 真広



マイナ保険証受付コーナーを開設しました

専門職 大瀬戸 徹也

2025年10月8日、当院の玄関ホールに、マイナ保険証受付コーナーを開設しました。顔認証付きカードリーダーによりマイナ保険証の受付が行える場所で、従来通り、再来受付機または窓口での受診受付は別に必要です。



これまでも顔認証付きカードリーダーは各窓口にありましたが、12月2日より従来の健康保険証が原則として使用できなくなり、マイナ保険証の利用増加が見込まれたため、2台を再来受付機の近くに集約しました。移行の日には、とちぎテレビの「イブ6プラス」が取材に訪れるなど、何がどう変わるのか、不安に思う方も少なくないようです。なお、従来の健康保険証は2026年3月末まで経過措置があり、資格確認書の運用も継続するため、実際は完全移行には至っていません。

マイナ保険証には、保険情報の確認という従来の役割のほか、過去に処方されたお薬の情報や特定健診の結果を患者さんが詳細に説明しなくても、医療機関がデータ閲覧できる利点があります。データ閲覧に同意いただけるかを受付の際に確認しますので、マイナ保険証では、受診前の受付をお願いしています。事前に受付を行うことで、会計待ち時間の緩和にもつながっています。また、高額療養費制度の限度額も自動で適用されます。

もう一步進んで、スマホにマイナ機能を登録すると、マイナンバーカードがなくても受付が可能になります。スマホ用のカードリーダーも設置していますので、ご活用ください。

マイナ保険証受付コーナーはセルフでの運用としておりますが、ご不明な点がございましたら、お近くの職員にお気軽にお声がけください。

マイナ保険証は
**来院の都度、
受診の前に。**
受付して頂くようお願いします

独立行政法人国立病院機構
栃木医療センター

こども医療や特定疾患等各種
「公費受給者証」をお持ちの方は、窓口までお越しください。

にしかわだキッズクリニック

院長 栗林 良多

2023年4月から宇都宮市西川田町で、にしかわだキッズクリニックを開業している栗林良多と申します。

大学卒業後は、獨協医科大学小児科学教室に所属し、大学病院では主に総合周産期母子医療センター新生児部門（NICU）で勤務しておりました。大学病院の新生児医療は、県内から様々な重症児

が集まるため、多様な経験をさせていただきました。NICUでは赤ちゃんの生命力の強さを実感することも多く、早産児、超低出生体重児、重症新生児仮死などの診療経験を積みながら、周産期医療にやりがいを感じ、昼夜問わずに勤務を続けてまいりました。現在も、大学病院の非常勤医として、NICU退院後の子供たちのフォローアップ外来を継続しています。

開業後は、小児科の一般診療（発熱、咳嗽、嘔吐など）と、予防接種や乳幼児健診などを中心に診療しております。小児科専門医の他に、新生児専門医を取得していることもあり、生後間もない赤ちゃんも比較的多く受診されています。限られた時間の中で、1人1人の子供たちの症状について丁寧な診療をすることを意識しながら、スタッフとともに診療しています。

外来診療において、川崎病や気管支喘息発作、肺炎など入院が必要と考えられる症例や、クリニックでの検査や対応が難しい症例、食物アレルギーの負荷試験が必要な症例などは、連携先である栃木医療センターの小児科にも紹介させていただいております。小児の外科疾患については、鼠径ヘルニアや停留精巣などの疾患だけでなく、急性虫垂炎疑いや精巣捻転疑いなど緊急性のある症例も、小児外科に快く受け入れていただいております。栃木医療センターの先生方には、毎度丁寧なご診療やご対応をいただきまして、大変感謝しております。

今後も、栃木医療センターと連携しながら、子供たちや家族に寄り添う診療を行い、地域医療に貢献したいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。



ご案内

<https://nishikawada-kids.jp/>

| 診療時間 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|------------------|---|---|---|---|---|---|---|
| 午前 9:00 ~ 12:00 | ● | ● | × | ● | ● | ● | × |
| 午後 14:00 ~ 18:30 | ● | ● | × | ● | ● | ● | × |

※休診日：水曜日・日曜日・祝日

※土曜日午後は17:30まで。



2024年12月2日より、従来の健康保険証は新たに発行されなくなり、健康保険証を利用登録したマイナンバーカード（以下、「マイナ保険証」）の使用が原則となりました。当院でも専用端末を設置しています。従来の健康保険証は、有効期限まで最長1年間使用できますが、マイナ保険証を利用すると次のようなメリットがあります。